

## 【資料3】

### 学校図書館との連携について

この事業は、子どもが一番長い時間を過ごす学校が、読書の喜びや調べることの重要性を学ぶ大切な場と考え、そのために学校図書館の整備・活用を図ることを目的としています。

市民図書館では、「我孫子市子どもの読書活動推進計画」の基本方針のひとつに、学校図書館における自主的な読書活動支援体制の整備をあげ、我孫子で育つすべての子どものためによりよい読書環境を整え、読書活動を推進するのに必要な学校図書館との協力・連携を強化していきます。

そのために、昨年度から教育委員会内の関係課（指導課・学校教育課・教育総務課・図書館）によって、学校図書館支援センター機能を立上げました。この機能が中心となって、これまで連絡会議や調べ学習図書の出、選書の相談など単発で連携していたことを、先まで見据えた学校図書館のあり方を考え、整備・活用の推進を協力・連携して進めています。

本審議会では、現在推進していることと今後の課題について報告いたします。

#### 1. 現在推進している事項

##### ①研究指定校の設置と活用推進

研究指定校は、昨年度より4校あります。

（布佐中学校・湖北台中学校・湖北台西小学校・布佐南小学校）

4校は推進のモデル校と位置づけ、試行を通して、我孫子における学校図書館活用の方向性を検証しています。

##### ●試行内容

- ・学校司書の勤務時間増加
- ・学校司書による授業支援

（そのための事前準備として本の選書と手配、指導書の読み込みなどがあります。また支援した授業を関係者に研修として公開します。）

- ・図書館の使い方ガイダンスの実施
- ・蔵書システム検証
- ・市民図書館連絡便を活用した本の物流

##### ②学校司書連絡会開催

年10回開催します。

学校司書の仕事内容・学校図書館の整備運営方法・本の選定などについて研修し、技術向上や情報共有をはかっています。

### ③蔵書システムの検討

- ・湖北台西小学校・布佐南小学校での検証システム（リブライズ）
- ・市民図書館との共同運用システムの検討

## 2. 今後の課題

### (1) 学校司書適正配置日数の積算

現状：小学校週2日 中学校週1日

不足していることは明らかですが、学校によって児童生徒教職員数や蔵書冊数が違うため、各学校に応じた配置日数を積算。

そのためには現在の研究指定校での成果と課題をまとめます。

### (2) 蔵書システム導入

市民図書館との共同運用を検討中。

システム化とネットワーク化が実現できれば、学校図書館本来の機能である「学習センター」「情報センター」としての役割を推進しやすくなります。

### (3) 学校図書館内の環境整備

- ・本の選書・廃棄が容易におこなえること
- ・児童の成長や児童生徒数に応じた備品類（イス・机・書棚など）の配置
- ・学校図書館の校舎内配置

### (4) 移動図書館「そよかぜ号」との協力

昨年度から第三小学校に巡回開始（月2回、児童・教職員のみ利用）しており今後も継続していきます。

それ以外のステーションでの利用も検討しています。

現在の候補は、並木（並木小学校校門前）と白山（白山中学校）のステーションです。ただし、この2か所は一般の利用者も利用するため、児童生徒及び学校の安全面を十分に考慮する必要があります。

### (5) 学校支援ボランティアの活用

現在、組織的におこなわれている学校の様々なボランティア活動を、学校図書館にも日常的に取り入れ、児童生徒の読書活動をサポートできる体制を検討。

### (6) 本の物流

市民図書館と学校図書館間、学校図書館間での貸借物流体制を検討。